
チック・トゥレット症の理解と支援

ライフステージに沿ったケースフォーミュレーションの実際

金生由紀子著

岩崎学術出版社, A5判 224頁, 3,850円, 2025年11月刊

(帝京大学) 野中舞子

本書について書評を書かせていただけることを光榮に思う。本書は筆者が長年お世話になっているチック症・強迫症の治療および研究で最前線を走ってこられた（そして現在も走っていらっしゃる）金生先生が東京大学医学部附属病院を定年退職される際に区切りとして刊行された本である。チック症・トゥレット症の診療支援に関わる専門職は手元に置いておくべき内容となっている。

本書は本文が2部立て、全15章と研究紹介コラム15編から構成されている。I部「チック・トゥレット症を理解する」は第1章から第8章が該当する。第1章から第4章は、チック症について定義や種類、チック症の診断の進め方、鑑別診断等について取り上げている。チック症・トゥレット症について評価をしたり、診断する際に有用な知見が具体的に掲載されている。第5章から第7章はチック症・トゥレット症の疫学、病因、歴史といったその疾患自体の理解が進む内容で構成されている。先行研究を交えながら議論が展開しており、学術的な理解を深める際に押さえておきたい内容がまとめられている。第8章はライフステージに沿ったチック・トゥレット症の理解という内容で、モデル症例を交えながら、発達的な観点での検討が行われており、第II部の治療・支援につながる枠組みが提示される。

II部「チック・トゥレット症を治療する／支援する」では、具体的な治療方法、支援の方法が紹介されている。第9章でどのようにケースフォーミュレーションを行い、支援方針を決めるのかが症例を交えながら概説される。第10章から第14章では、治療・支援の基本構成に加え、認知行動療法、薬物療法、脳深部刺激療法、その他の治療と支援で構成されている。第15章において、それらを統括する形で、治療や支援について説明がなされている。

15編のコラムには、著者が携わってきた、あるいは著者自身が行ってきた研究が紹介されている。家族研究から前駆衝動の研究、具体的な支援（認知行動療法、薬物療法、脳深部刺激療法）、保護者の体験の理解、チック症状への対処の研究など、非常に幅広い。著者は医師でありながら、常に統合的に患者・家族を治療・支援してきたことが、こうした研究の構成からもうかがえる。

本書は今まで出版されてきたチック症・トゥレット症の書籍の中で、最もわかりやすく、包括的な内容を取り上げている。第I部の内容は、多数の先行研究を引用しながら学術的にまとめられており、辞書のように参照することもできる。対して、第II部を中心とした支援についての記載はモデル症例を交えることで、全体を統合している。著者のこうした包括的な研究活動・臨床活動と長年の啓発活動により、トゥレット症という言葉が神経発達症の一つとして一般的に知られるようになったことがよくわかる一冊となっている。
